

## 第83期(2005年度)事業計画(概要)

### 1. 定期的会合に関して

(1) 総会 2006年4月

(2) 評議員会 5、12、3月に開催 (3) 理事会 4月、7月、10月、12月、2月、3月に開催

### 2. 各種部会、委員会等に関して

(1) 常置部会、委員会

1) 政策・財務部会：5月、6月、9月、11月、1月に開催

学会の運営と財政基盤を中長期的視点から審議するとともに戦略の提言、新規事業の企画、学会理念の提示等を行なう。①支部・部門活性化委員会、②技術倫理委員会、③国際交流委員会、を常置する。特に技術倫理委員会は、本会倫理規定を通して会員間の諸問題の調整機関としての役割を担う。

国際支部設立タスクグループ：答申を受け、国際支部立上げを図る。

Ladies' Association of JSME：女性会員問題を抽出し、女性会員の比率やその社会的地位を高める。

2) 広報・情報部会：広報理事を主体に開催して学会のWEB環境の改善を行い、広報・情報活動を充実する。

3) 会員部会：個人会員、特別会員の増強についてその周辺環境の強化をめざす。

4) その他：表彰部会、学会賞委員会、会誌出版部会、論文集出版部会、論文集編集委員会、ジャーナル編集委員会、出版事業部会、支部協議会(8支部)、部門協議会(21部門)、技術開発支援センター、工学教育センターを常置する。110周年記念検討WG、人材育成、会員シニア等検討。

### 3. 出版事業に関して

(1) 日本機械学会誌(機械技術者の情報誌)…………… 会誌出版部会

(2) 日本機械学会論文集(専門分野の情報誌)…………… 論文集出版部会(論文集編集委員会)

(3) JSME International Journal(国際情報誌)…………… 論文集出版部会(ジャーナル編集委員会)

(4) 機械工学に関する図書の出版…………… 出版事業部会

### 4. 専門分野の研究推進並びに社会的寄与を目的とする事業に関して

(1) 年次大会：2005年9月19日～22日、電気通信大学で開催。

(2) 部門協議会・計算力学部門、・バイオエンジニアリング部門、・材料力学部門、・機械材料・材料加工部門、・流体工学部門、・熱工学部門、・エンジンシステム部門、・動力エネルギーシステム部門、・環境工学部門、・機械力学・計測制御部門、・機素潤滑設計部門、・設計工学・システム部門、・生産加工・工作機械部門、・生産システム部門、・ロボティクス・メカトロニクス部門、・情報・知能・精密機器部門、・産業・化学機械と安全部門、・交通・物流部門、・宇宙工学部門、・技術と社会部門、・法工学部門

(3) 機械工学振興事業資金による一般社会人対象事業への助成

### 5. 技術者の能力開発・継続教育事業、調査研究文化事業

技術開発支援センター：①標準事業部会(ISO、JISの見直し・制定、発電用設備規格の作成、標準事業表彰など)、標準事業組織の位置づけ見直し、②研究協力事業部会、③技術相談事業部会、④機械状態監視資格認証事業部会

工学教育センター：①日本技術者教育認定機構(JABEE)対応委員会、②能力開発支援事業部会、計算力学技術者認定事業、能力開発支援システム(会員の活動履歴管理によるCPDポイント管理)を本格実施する。③教育支援関連事業部会「テクノボランティア制度」の活用

### 6. 教育文化事業：メカライフの世界展、愛知万博への参画、国立科学博物館での学会賞(技術)の展示など

### 7. 対外交流事業

(1) 国際交流委員会(政策・財務部会管下)

本会諸事業の国際展開の推進や、海外学協会との協力協定を締結し、JSME news等を発行する。

(2) 外部機関への協力

文部科学省、経済産業省、日本学術会議、日本工学会、日本学士院、日本学術振興会、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、大学評価・学位授与機構、科学技術振興機構(JST)、国立情報学研究所(NII)、日本機械工業連合会、電気学会をはじめとする学会・工業会や日本規格協会等との協力、受託調査・研究

### 8. 表彰事業

(1) 表彰部会：日本機械学会賞(論文、技術、技術功績)、日本機械学会奨励賞、同教育賞、日本機械学会畠山賞、日本機械学会船井賞、フェロー賞(若手優秀講演)、日本機械学会三浦賞、特別員向け「ものづくり賞」検討。国立科学博物館での学会賞(受賞技術)のパネル展示を行う。

(2) 学会賞委員会、船井賞選考委員会

### 9. 支部活動…………… 学生会

・関西支部、・九州支部、・東海支部、・北海道支部、・中国四国支部、・北陸信越支部、  
・東北支部、・関東支部、 国際支部(支所)設置検討

主な事業

①学術講演会、②講習会、③座談会・見学会・懇談会、④市民フォーラム、⑤公開講座、⑥支部ニュース発行、⑦支部賞、⑧地域交流会、⑨学生員卒業研究発表会、⑩メカライフの世界展、⑪地域啓発講義会、⑫支部ホームページ(本部のJSME-netとのリンク)

# 社団法人 日本機械学会 第83期(2005年度)事業計画

本年度の主な事業は、次の通りである。

## 1. 定期的会合に関して(定款第33条～41条)

- (1) 総会 2006年4月 予定 場所 未定、参加予定者数 300人
- ・ 2005年度事業報告
  - ・ 2005年度会計報告
  - ・ 新役員を選出
  - ・ 2006年度事業計画・事業予算
  - ・ 名誉員推薦および名誉員章の贈呈
  - ・ 日本機械学会賞の贈呈
- ★総会付随行事 会員パーティ

### (2) 評議員会

2005年

- ・ 5月 事業計画、予算の説明
- ・ 12月 総会提出議案の審議、推薦名誉員の審議

2006年

- ・ 3月 2005年度事業報告
- 2005年度会計報告
- 理事予選の件
- 2006年度予算・事業計画の審議
- 日本機械学会賞の受賞候補の審議
- フェローの選出

### (3) 理事会

- ・ 4月、7月、10月、12月、2月、3月に開催予定(その他に所管理理事会を毎月開催)

## 2. 各種部会、委員会等に関して(定款第3条6号)

### (1) 常置部会、委員会

#### 1) 政策・財務部会を、5月、6月、9月、11月、1月に開催

学会の運営と財政基盤を中長期的視点から審議するとともに戦略の提言、新規事業の企画、学会理念の提示等を行う。①支部・部門活性化委員会、②技術倫理委員会、③国際交流委員会、を常置する。特に技術倫理委員会は、本会倫理規定を通して会員間の諸問題の調整機関としての役割を担う。

国際支部設立タスクグループ：答申を受け、国際支部立上げを図る。

Ladies' Association of JSME：女性会員問題を抽出し、女性会員の会員比率やその社会的地位を高める。

#### 2) 広報・情報部会を、広報理事を主体に開催して学会の広報活動を充実する。

インターネット接続の本会ホームページ「JSME-net」に関して、アンケート・掲示板システム構築、会員専用ページの拡大、カード決済の検討、会員への広報(インフォメーションメールの活用)、能力開発支援システム(会員の活動履歴管理によるCPDポイント管理)などと共に、情報機器環境の高度化にそった体制を構築し、会員のニーズに応える活動を展開する。

#### 3) 会員部会

会員であることのある存在感を持てるサービスを検討すると共に、支部・部門との接点を深くして会員増強に努める。特に人数の多くなった大学院学生向けの会員獲得策を検討実施する。

##### ① 学生員委員会

国内の大学、短大、高専の機械工学科を支部ごとに組織した各学生会の情報交換と調整を図り、学生員による学会活動に対し補助を行う。

##### ② フェロー選考委員会

適任なフェロー候補を選考する。

#### 4) その他：表彰部会、学会賞委員会、会誌出版部会、論文集出版部会、論文集編集委員会、ジャーナル編集委員会、出版事業部会、支部協議会(8支部)、部門協議会(21部門)、技術開発支援センター、工学教育センターを常置する。110周年記念検討WG、人材育成、会員シニア等検討。

## 3. 出版事業に関して(定款第3条3号)

### (1) 日本機械学会誌(機械技術者の情報誌)…………… 会誌出版部会

年12冊(本文ページ 約900ページ, 会告約400ページ)

### (2) 日本機械学会論文集(専門分野の情報誌)…………… 論文集出版部会(論文集編集委員会)

以下の予定で年36冊(3分冊×12回)を発行する。

シリーズ	専門分野別内容	掲載論文数	ページ
A編	材料力学・材料等	230	1,800
B編	流体工学・流体機械・熱工学・内燃機関・動力等	380	2,900
C編	機械力学・計測・自動制御・機械要素・潤滑・工作・生産管理等	480	3,700

### (3) JSME International Journal(国際情報誌)…………… 論文集出版部会(ジャーナル編集委員会)

他の国際誌との競合に十分耐え得る、最先端科学・技術の国際情報誌。年12冊、2,700ページの予定で発行する(科研費の補助申請)。JST、NIIと提携し電子情報出版を試行する。

(4) 機械工学に関する図書の出版 …………… 出版事業部会

新版機械工学便覧改訂版(電気・電子の基礎、機械要素・トライボロジー、エネルギー供給システム、材料力学、交通機械、材料学・工業材料、生産システム、熱交換器)、教科書シリーズ(流体力学、振動学、伝熱工学、数学、機構学、加工学Ⅰ)、発電用設備規格ほかを直営で出版する。

4. 専門分野の研究推進並びに社会的寄与を目的とする事業に関して(定款第3条1号、2号、4号)

(1) 年次大会

年次大会: 2005年9月19日~22日、電気通信大学で開催。

(2) 部門協議会

部門協議会は以下の21部門の部門長によって構成され、部門に共通する事項を審議し併せて部門間の諸行事企画の調整をする。今後は、一層活発な部門活動を期待すると共に支部同様にその経済的自立を図る。支部・部門活性化委員会においては部門の活動評価を行う。

- ・計算力学部門
- ・バイオエンジニアリング部門
- ・材料力学部門
- ・機械材料・材料加工部門
- ・流体工学部門
- ・熱工学部門
- ・エンジンシステム部門
- ・動力エネルギーシステム部門
- ・環境工学部門
- ・機械力学・計測制御部門
- ・機素潤滑設計部門
- ・設計工学・システム部門
- ・生産加工・工作機械部門
- ・生産システム部門
- ・ロボティクス・メカトロニクス部門
- ・情報・知能・精密機器部門
- ・産業・化学機械と安全部門
- ・交通・物流部門
- ・宇宙工学部門
- ・技術と社会部門
- ・法工学部門

部門事業

部門は各々独自に以下の行事を企画し実施する。

①集会事業

研究発表講演会、講習会、特別講演会、見学会等の企画・実施をする。

②調査研究事業

各種の分科会、研究会を設置して、幅広い調査研究活動を行う。

③技術情報提供活動

各部門毎に年間1~3回ニュースレターを発行し、登録会員に配布し各種の技術情報を提供する。

④出版関連事業

新刊図書発行の企画提案、日本機械学会基準・規格の発行等の出版活動を実施する。

⑤部門ホームページ

各部門のホームページによる情報提供を充実する。

⑥部門賞

部門活動の貢献者に贈賞する。

(3) 機械工学振興事業資金による一般社会人対象事業への助成

100周年記念を機に、会員の寄付金を資金として設けられた本制度により、一般社会人向け行事に対し助成を行う。

5. 技術者の能力開発・継続教育事業、調査研究文化事業(定款第3条1号、2号、4号、5号)

技術開発支援センター:

①標準事業部会

本会独自の学会基準・規格作成とその拡充を図る。特に近年、国の規制緩和に伴う民間基準・規格の活用が具体的化しつつあることから、本会でも学会基準の一層の拡大強化を図る。また、ISOの国際標準案に対する日本の回答案作成のため、国際標準国内委員会を設置する。標準事業の拡大、特に発電用設備規格発行が、日本国内において重要な役割を果たしており、標準事業組織の位置づけを見直す。

②研究協力事業部会

特定テーマの調査研究をするため研究者・企業協力による分科会を設置する。

③技術相談事業部会

あらゆる技術相談の窓口として技術相談事業を行っている(メカノスクエア)。

④機械状態監視資格認証事業部会

機械状態監視診断技術者の育成と国際的相互認証に向けて、本会が対応出来る体制作りを行う。特に今期は振動分野が先行して試験問題の作成、認証を行う。

工学教育センター: 工学教育センターは、個々の専門領域に根ざした工学教育に関する事業を行い、

研究者・技術者の知識啓発の促進並びに会員の社会的地位向上を図る。下記の事業を管理するため運営委員会、企画委員会を常置する。

①日本技術者教育認定機構(JABEE) 対応委員会

JABEEより委託を受け技術者教育プログラムの審査作業を支援する。

②能力開発支援事業部会

産業界、研究・教育機関等と協力し、機械工学技術者の資質維持の向上を図り、国際的に通用する技術者とするため、能力開発・継続教育のための教材作成、講習、認定等の活動を行う。能力開発支援システム(会員の活動履歴管理によるCPDポイント管理)に関する半年間の試行を経た上で本格実施する。2003年度より開始した計算力学技術者認定事業を行う。そのため計算力学技術者基準と認定に関する検討委員会、計算力学技術者認定委員会を常置する。

### ③教育支援関連事業部会

初等、中等教育における理工系教育の改善（教育従事者も対象とする）、高等工学教育の改善、人材活用・雇用の情報提供、インターンシップの支援、国内外他学協会、教育機関の提供する教育プログラム情報の調査・提供、高齢者・女性教育、在日外国人教育、在外邦人教育などの各種教育プログラム、日本学術会議第5部との連携等の教育に関連する各種事業の支援並びに新規事業の開拓を行う。特に2004年11月よりWEB上に「テクノボランティア」を立ち上げ、自己登録活動が出来るようにしたので、会員シニアなどの活躍の舞台を一層強化するため、一般社会へ広報宣伝を行う。

（テクノボランティア制度とは、小学生・中学生・高校生の理工系離れに対して、「ものづくり」や「わかりやすい実験」の講義を通じて工学の魅力を訴えることを目的として発足。学習に夢を持たせるとともに、ものづくりの大切さと楽しさを実感してもらうため、会員からボランティアを募り本会がその会員を講師として派遣し啓発活動をする。）

## 6. 教育文化事業（定款第3条1号、2号、4号、5号、6号）

### (1) メカライフの世界展：

機械工学を一般社会に普及啓発する活動の一環として、平成5年（1993年）より全国の大学及び工業高等専門学校校の「大学祭や学園祭」で、小中高生を対象にした行事「メカライフの世界展」を開催している。

### (2) 愛知万博、国立科学博物館での展示など：

機械工学全般の広報・宣伝活動の一環として小中学生を対象に先端技術（ロボット、エンジン等）の展示を行う。国立科学博物館では、最新学会賞（受賞技術）のパネル展示を行う。

## 7. 対外交流事業（定款第3条1号、2号、4号、5号、6号）

### (1) 国際交流委員会（政策・財務部会管下）

本会諸事業の国際的展開の推進、英文ニュース（ホームページ含む）の提供、海外の協力協定締結学会と交流、特に中国・韓国・インドネシア3学会と共同でニュースレターの共同発行等の活動を行う。

### (2) 外部機関への協力

文部科学省、経済産業省、日本学術会議、日本工学会、日本学士院、日本学術振興会、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、大学評価・学位授与機構、科学技術振興機構（JST）、国立情報学研究所（NII）、日本機械工業連合会、電気学会を始めとする学会・工業会や日本規格協会等との協力、受託調査・研究

## 8. 表彰事業（定款第3条6号）

### (1) 表彰部会

「日本機械学会賞」の2005年度募集要綱を作成する。日本機械学会賞（技術功績、論文、技術）、日本機械学会奨励賞（研究、技術）、日本機械学会教育賞の各受賞候補選考のため日本機械学会賞委員会を構成する。また、日本機械学会賞委員会からの選考結果について具申を受け、内容の審議等必要な調整を行い、受賞候補を理事会へ上申する。また、国内の大学、短大、高専の優秀な機械工学系学科の卒業生に対して会員、会員外を問わず広く本会「畠山賞」を、大学院修士課程の学生向けに「日本機械学会三浦賞」を授与し、学生の勉学を奨励する。「フェロー賞（若手優秀講演）」を支部・部門により円滑に実施する。特別員中小企業向け「ものづくり賞」を設ける。

船井情報科学振興財団の申出により2003年度から「日本機械学会船井賞」を設置し、主にメカトロニクス技術を対象に国内の公的団体に所属する優秀な業績を表彰する。

### (2) 学会賞委員会、船井賞選考委員会 日本機械学会賞、船井賞の受賞候補を選考する。

## 9. 支部活動 …………… 学生会（定款第3条1号、2号、4号、5号、6号）

各支部とも予算に基づき事業計画を立案し各種行事を実施する。支部・部門活性化委員会は支部の活動評価を行い支部の活性化を図る。

	主な事業
・ 関西支部	
関西学生会	①学術講演会
・ 九州支部	②講習会
九州学生会	③座談会・見学会・懇談会
・ 東海支部	④市民フォーラム
東海学生会	⑤公開講座
・ 北海道支部	⑥支部ニュース発行
北海道学生会	⑦支部賞
・ 中国四国支部	⑧地域交流会
中国四国学生会	⑨学生員卒業研究発表会
・ 北陸信越支部	⑩メカライフの世界展
北陸信越学生会	⑪地域啓発講義会
・ 東北支部	⑫支部ホームページ（本部のJSME-netとのリンク）
東北学生会	
・ 関東支部	
関東学生会	